

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公表番号】特表2002-528037(P2002-528037A)

【公表日】平成14年8月27日(2002.8.27)

【出願番号】特願平11-501024

【国際特許分類第7版】

C 1 2 Q 1/68
A 6 1 K 31/711
A 6 1 K 38/45
A 6 1 K 38/46
A 6 1 K 45/00
A 6 1 K 48/00
A 6 1 P 37/02
C 1 2 N 5/10
C 1 2 N 9/10
C 1 2 N 15/09
C 1 2 P 19/18
G 0 1 N 33/53

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A
A 6 1 K 31/711
A 6 1 K 45/00
A 6 1 K 48/00
A 6 1 P 37/02
C 1 2 N 9/10
C 1 2 P 19/18
G 0 1 N 33/53 S
C 1 2 N 15/00 A
C 1 2 N 5/00 B
A 6 1 K 37/54
A 6 1 K 37/52

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月20日(2005.5.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年5月20日



特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成11年特許願第501024号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 カリフォルニア 92121, サン ディエゴ,
ジョン ホプキンス コート 3525

名称 サイテル コーポレイション

住所 アメリカ合衆国 カリフォルニア 94607-5200,
オークランド, フランクリン ストリート 1111,
12ティーエイチ フロアー

名称 ザ リージェンツ オブ ザ ユニバーシティ オブ カリフォルニア

3. 代理人

住所 〒540-6015 大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号
クリスタルタワー15階

氏名 (7828) 弁理士 山本 秀策

電話 (大阪) 06-6949-3910



4. 補正対象書類名

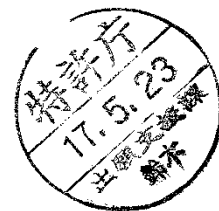
請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。



請求の範囲

1. 哺乳動物における免疫応答を阻害するための組成物であって、該組成物は、該哺乳動物の細胞に存在するシアリル化オリゴサッカリドの量を減少させる薬剤の治療的有効量を含み、ここで、該シアリル化オリゴサッカリドが、 $\text{Sia } \alpha 2\text{-6Gal}$ 1-および $\text{Sia } \alpha 2, 3\text{Gal}$ -から成る群から選択される式を含む、組成物。
2. 前記シアリル化オリゴサッカリドが、 $\text{Sia } \alpha 2\text{-6Gal } \beta 1\text{-4GlcNAc}$ および $\text{Sia } \alpha 2, 3\text{Gal } \beta 1\text{-3GalNAc}$ から成る群から選択される式を含む、請求項1に記載の組成物。
3. 前記哺乳動物がヒトである。請求項1に記載の組成物。
4. 前記細胞がリンパ系細胞である、請求項1に記載の組成物。
5. 前記免疫応答がBリンパ球媒介性免疫応答であり、そして前記シアリル化オリゴサッカリドが式 $\text{Sia } \alpha 2\text{-6Gal}$ -を含む、請求項1に記載の組成物。
6. 前記免疫応答がTリンパ球媒介性免疫応答であり、そして前記シアリル化オリゴサッカリドが式 $\text{Sia } \alpha 2, 3\text{Gal}$ -を含む、請求項1に記載の組成物。
7. 前記Tリンパ球が CD8^+ Tリンパ球である、請求項6に記載の組成物。
8. 前記薬剤が、前記シアリル化オリゴサッカリドの合成に関与するグリコシルトランスフェラーゼをコードする遺伝子の発現を阻害する、請求項1に記載の組成物。
9. 前記グリコシルトランスフェラーゼがシアリルトランスフェラーゼである、請求項8に記載の組成物。

10. 前記シアリルトランスフェラーゼが、ST6GalシアリルトランスフェラーゼおよびST3Gal Iシアリルトランスフェラーゼから成る群から選択される、請求項9に記載の組成物。

11. 前記薬剤が、前記グリコシルトランスフェラーゼをコードする核酸に特異的にハイブリダイズするアンチセンス核酸である、請求項8に記載の組成物。

12. 前記薬剤が、転写活性化因子の、前記グリコシルトランスフェラーゼをコードする遺伝子の発現を増加させる能力を阻害する、請求項8に記載の組成物。

13. 前記転写活性化因子が、腫瘍壊死因子 α 、インターロイキン1、グルココルチコイド、レチノイン酸、および肝臓転写因子から成る群から選択される、請求項12に記載の組成物。

14. 前記グリコシルトランスフェラーゼをコードする前記核酸がmRNAまたはmRNA前駆体である、請求項11に記載の組成物。

15. 前記薬剤が、グリコシルトランスフェラーゼポリペプチドの酵素活性を阻害する、請求項1に記載の組成物。

16. 前記グリコシルトランスフェラーゼがシアリルトランスフェラーゼである、請求項15に記載の組成物。

17. 前記シアリルトランスフェラーゼが、ST6GalシアリルトランスフェラーゼおよびST3Gal Iシアリルトランスフェラーゼから成る群から選択される、請求項16に記載の組成物。

18. 前記薬剤が、シアル酸前駆体のアナログを含む、請求項15に記載の組成物。

19. 前記薬剤が、前記グリコシルトランスフェラーゼについての、ドナー物質のアナログまたはアクセプター物質のアナログを含む、請求項15に記載の組成物。

20. 前記薬剤が糖ヌクレオチドのアナログを含む、請求項19に記載の組成物。

21. 前記薬剤が、前記シアリル化オリゴサッカリドからシアル酸を切断するシアリダーゼを含む、請求項1に記載の組成物。

22. 前記薬剤が、シアリルトランスフェラーゼのためのアクセプター基質を、シアリルトランスフェラーゼアクセプター基質ではないオリゴサッカリドに変換するグリコシルトランスフェラーゼを含む、請求項1に記載の組成物。

23. 前記グリコシルトランスフェラーゼがフコシルトランスフェラーゼである、請求項22に記載の組成物。

24. シアリルトランスフェラーゼをコードする遺伝子において不活化変異を含むゲノムを有する、哺乳動物細胞。

25. 前記変異が、欠失、ナンセンス変異、挿入、およびミスセンス変異から成る群から選択される、請求項24に記載の哺乳動物細胞。

26. 前記変異が、シアリルトランスフェラーゼをコードする遺伝子のコード領域または調節領域に存在する、請求項24に記載の哺乳動物細胞。

27. シアリルトランスフェラーゼをコードする遺伝子における不活化変異を含むゲノムを有する細胞を含む、キメラ非ヒト哺乳動物。

28. 前記シアリルトランスフェラーゼが、ST3Gal IおよびST6Galシアリルトランスフェラーゼから成る群から選択される、請求項27に記載のキメラ哺乳動物。

29. 前記哺乳動物がマウスである、請求項27に記載のキメラ哺乳動物。

30. 前記哺乳動物がトランスジェニックである、請求項27に記載のキメラ哺乳動物。